

芦原中学校区学校再編に伴う小学校活用方針(案)に対するパブリックコメントにおける意見等の概要とそれぞれに対する市の考え

ページ	意見等の内容	市の考え
1	「総量削減」と「地域の活性化に寄与する」をどの様に結び付けるのか、現有の施設には市民の税金も多く使われている。	公共施設の面積を削減することで、維持管理経費等の施設にかかるコストや事業運営にかかるコストも縮減できます。また、住民サービスに必要な機能は残しつつ、積極的に民間開放による有効活用を図ることで、雇用や新たな賑わいの創出、税収の確保などが期待でき、地域活性化の寄与にもつながるものと考えています。
4～7	参加人数は想定内か想定外か、市の広報活動は適切と評価しているか。	参加人数については、想定よりも少なかったと感じていますが、広報こもろ、市公式ホームページ・SNS（X、Facebook、Instagram）、プレスリリースのほか、各区や市内商業施設等へのポスター掲示、市内小中学生保護者宛の連絡ツール（スクリレ）といったあらゆる手法を用いて広く周知しており、広報は適切であったと考えています。
	「施設の名称」が羅列されているが、残念ながらあまり意味がないと思える。とても重要と考える部分は「その他」の項に書かれている内容だ。この部分を参加者と共有しもっと具体的な施策に展開すべきだったと思うが、いかに。	ワークショップは、ゼロベースで自由なアイデアや学校に対する想いなどを出し合っていただき、小学校活用の検討を進めていく上でのあらゆる可能性を探ることを目的としたものです。出されたご意見に加え、民間事業者のニーズや市の各種計画なども踏まえた上で、今後活用の検討を進めていきたいと考えています。
	どのような業種の企業にヒアリングを行なったか分からないが、製造業に関する記述が少ない。当地域で働く人を増やす視点は重要と考えるが、いかに。	民間開放による有効活用を図ることは、雇用の創出につながる重要な要素として考えています。

	民間企業へのアプローチは全部門が機会ある毎に聞き取りすべきだ。当該跡地や物件の価値が共有できる相手を探す手段を多様化して欲しい。	今後実施を予定しているサウンディング型市場調査も含め、あらゆる機会を捉えてアプローチしたいと考えています。
	他部署の職員による検討で活用アイデアを出した方々の基になったイメージが最も大切だ。このアイデアを「物語（ストーリー）」として全部門で共有して欲しい。	検討結果については、全部門で共有しています。
8	二つの「計画」が列挙されているが、記載の目的は何か。「1 背景・目的」でも「施設総量の縮減・削減」を取り上げている。これが「小学校活用方針」の目的と考えて良いか。	小学校活用の検討を進める上で踏まえるべき事項として、公共施設全体の方針を示している計画を記載しています。施設総量の縮減は、小学校も含めた公共施設全体の方針です。
	小諸市の課題は「担税力の強化」とある。聞き慣れない言葉「担税力」とは、今期一般会計の歳入に占める自主財源約91億円（38.5%）の向上と同義と考えた。施設総量削減率には30%の数値目標があるが、「担税力」の目標値はいかに。本件が「担税力の強化」に直接貢献するのか。	担税力の目標値は定めていません。民間開放による有効活用を図ることで、雇用や新たな賑わいの創出、税収の確保などが期待でき、担税力の強化にもつながるものと考えています。
9～10	「複数の事業者への分割譲渡・貸付も可能とすることで、地元の中小企業や多様な業種の事業者が参入しやすい環境を整えます」を「複数の事業者への分割譲渡・貸付も可能とすることで、行政が地元の中小企業や多様な業種の事業者と適切に調整し、これらが参入しやすい環境を整えます」とするのはいかがでしょうか？	今後実施を予定しているサウンディング型市場調査において、事業者同士がマッチングできる仕組みを検討しています。
	前文に「学校ごとの活用方針を定める」とあるが、ネットワーク（連携）的な視点での活用も検討すべきと考える。	状況によって、連携した検討もあり得ると考えています。
	老朽化した施設の受け皿とあるが、具体的には何を指しているのか分からない。	老朽化した他の公共施設を集約化・複合化するために活用することを考えています。

	「公募型プロポーザル方式」での推進に期待している。具体的な事例が出てきた時期に一般にも公開して欲しい（守秘義務の可能な範囲内で）。	11ページに記載してあるとおり、事業者選定の際には、丁寧な説明に努めることとします。
11	売却する民間企業に「災害協定の締結」を求めることを条件とする内容だが、自由に事業展開を企画する企業の応募に足かせとならないか。	災害協定の締結は、考え方のひとつとして示しています。地域の防災拠点であることを踏まえ、お互いに有益な方法を検討していきたいと考えています。
12	芦原新校の財政的な評価は、これから検討（企画）し、交渉し、確定し、実施する施策に掛かっている。全職員が関わり、将来を展望した施策になることを期待する。これが次の段階に進む羅針盤になる。	重要な課題であると認識し、今後検討を進めてまいります。
	国が進めている「ふるさと納税」なる制度、私的には評価していない。ただし、評価出来ることは、この制度に伴い地方の企業に「技術革新」をもたらしたこと、市町村に「利益」の感覚を植え付けたことだ。過度な返礼品には興味がない。	本活用方針(案)に係る内容ではありませんので、回答することはできません。ご意見については、担当部署に伝えます。
	3 小学校の体育館は「民間事業者による活用」から除外すること ・先般記述した地域（市民全体として）が最も望んでいることは防災拠点確保 ・部活動の地域移行の推進拠点、日中でも夜間でも子供達の元気な姿 ・運動や催し物を通した地域交流、高齢者の元気な場所作り これらの視点で「小諸市の物語（ストーリー）」がひとつ作れる	現時点での方針としてご理解をお願いします。

	特質した施設・設備の連携（ネットワーク） ・千曲小学校のランチルーム ・水明小学校の芝生校庭 民間事業者へのプレゼンとして、千曲小の施設をリノベした宿泊施設と水明小の芝生校庭を組み合わせ、小学生や中学生のサッカーやラグビーの合宿を企画する。旧小諸高校の音楽堂とコラボできれば、音楽のまち小諸がより認知される。この企画で「小諸市の物語（ストーリー）」がもう一つ作れる。	ご提案のひとつとして参考にさせていただきます。
	大人への企画 ・千曲小のリノベした宿泊施設と「日本酒、ワイン、ビール、ウィスキー」を組み合わせ、秋から春の大人向け企画をプレゼンする。市長を先頭に関連部局のこれまでの外部との人的交流を十分に生かして欲しい。佐久地域、東信地域、県内全体とより広域的な観点で取り組んで欲しい。期待している。	ご提案のひとつとして参考にさせていただきます。